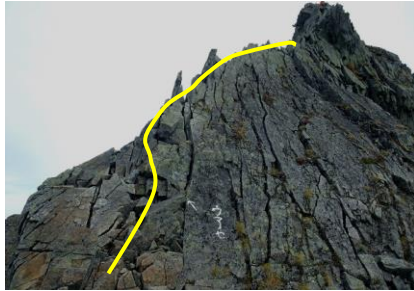


◎点線ルートはどんなコースなのか

昭文社の「山と高原地図」は一般の登山者にとって山の情報を沢山載せており使い易い。アルプス等の一般の縦走には無くてはならない。しかし地図を良く見ると登山道が点線の所がある。これは一般登山道でない事を意味し、安易に立ち入る事は慎みたい。でもどんな所か覗いてみたい。

A.北アルプス、西穂高岳～奥穂高岳

北アルプスで最も有名な点線ルートが右図の西穂高から奥穂高の稜線である。ガレた岩、キレ落ちた稜線(ウマノセ)、30mを越すクサリ場、何よりルートが不明瞭な点が素人には解りにくい。しかし装備をきちんとし、経験者と共に縦走すれば確かな達成感が得られること間違いなしである。奥穂高岳から見るジャンダルムはまた格別である。一般的には西穂高方面から登る方が岩稜帯の登りが多く歩きやすい。大キレットや不帰キレット等を経験したら是非挑戦して欲しい。西穂高山荘を朝早く出ればその日の内に奥穂高山荘に辿り着ける。



ウマノセの岩峰(この稜線を登る)



北アルプス穂高連峰の点線ルート

B.南アルプス、鋸岳

甲斐駒ヶ岳から北西の鋸岳に続く岩稜帯もまた点線ルートである。途中1泊の必要が有る。横から見ると鋸の歯の様な稜線である。甲斐駒ヶ岳を経由するため避難小屋か、角兵衛沢の大岩下辺りが便利である。縦走には北アと同じくしっかりした装備と経験者の同行が必要である。



鋸岳第一高点より第二高点を望む



南アルプス鋸岳の点線コース

C.南アルプス、白峰南稜

西農鳥の南方に広河内岳があり、そこから笹山方面に南下する稜線を白峰南稜と言う。途中の笹山(黒河内岳)までが核心部で更なる南下は林道歩きもある。このルートは厳しい岩稜帯はないものの、広い稜線尾根でのルートファインディングが特に必要で、霧等で見通しの悪い場合は充分注意しないと道迷いを引き起こす危険性がある。これもルートが長いので大門沢小屋で泊まり、途中稜線上でテントを張る必要が有る。笹山から奈良田は、昔道はなかったがツアー客が多くなり近年登山道が整備された。



南アルプス白根南稜の点線コース

D.戸隠山、西岳

戸隠山、表山は縦走された方は多いと思う。途中クサリ場の連続、アリの戸渡り等の難所を覚えているだろうか。しかし更に面白いのが、八方睨みから西に続く稜線である。途中、本院岳、西岳と続きP1尾根を下る。クサリ場の連続や剣の刃渡り等の難所も有る。登山道が解りにくいので経験者の同行が必要である。日帰りも可能であるが朝早い出発が必要である。

E.妙義山、尾根ルート

妙義山にも点線ルートが多い。ここは戸隠山と同じ砂岩できており、岩が脆い。危険個所にはクサリがついているが、長く、傾斜も急なため結構腕力が必要で初心者の方はザイルを出してもらおうと安心できる。一般的には妙義神社から相馬岳まで行き途中のタルワキ沢～中間道に下るルートをとる。相馬岳から先はクサリが不十分な所もあり要注意。



妙義山稜線部分の点線コース

F.その他

まだいろいろあるが、越後三山の五竜岳～中の岳の縦走コースも点線でおもしろい。特にオカメノゾキと呼ばれる個所は厳しい高低差があり、疲れ果てる。これらに限らず、点線もない稜線、岩稜に挑戦できるよう頑張ってください。



戸隠山西岳の点線コース